

04.8/12

整理番号:A075Q3P004 発送番号:169608 発送日:平成16年 5月12日 1

拒絶理由通知書

COPY

特許出願の番号	特願 2001-219714
起案日	平成16年 5月 7日
特許庁審査官	林 毅 9193 5B00
特許出願人代理人	稲葉 良幸 (外 2名) 様
適用条文	第29条柱書、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、下記の点で特許法第29条第1項柱書に規定する要件を満たしていないので、特許を受けることができない。

記

請求項1-26に係る発明において、登録レコードの記入（請求項1、8、15及び21記載）及びマウスのクリック（請求項7、14、20記載）は、技術常識からして、人間であるユーザが行っていることは明らかである。

したがって、請求項1-26に係る発明は、人間の精神活動を利用したものであるから、自然法則を利用したものではなく、特許法第29条第1項柱書の「発明」にあたらない。

2. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第1号に規定する要件を満たしていない。

記

（1）請求項2の記載「さらに含む」からすると、請求項2に記載の工程（d'）は、請求項1に記載の工程（d）に追加される工程であると解釈すべきであるから、請求項2に係る発明は、サーバが第2要求を受け取った後、対応する登録ウェブページをクライアントに送る工程と、事前にクライアントが登録レコードを完成しているかどうかを判断して、工程（g）を直接実行する工程の両方を行うことになるが、このような態様は、実施例には記載されていない。

請求項9の記載についても同様。

よって、請求項 2、9 に係る発明は、発明の詳細な説明に記載したものでない。

3. この出願は、発明の詳細な説明の記載について下記の点で、特許法第 36 条第 4 項第 1 号に規定する要件を満たしていない。

記

(1) 「セグメント」の定義が不明である。

(2) 「命令」と「登録条件」の関係は、1 対 1、多対 1、又は、1 対多であるのか不明である。

(3) 各「登録ウェブページ」は、段落【0002】に記載された登録レコードを登録するためのフォームであると認められるが、各「登録ウェブページ」によって登録すべき登録レコードは、1 つであるのか複数あっても構わないのか不明である。また、複数あるとすれば、登録すべき登録レコードは、各「登録ウェブページ」間で、排他的でなければならないのか重複していても構わないのか不明である。また、クライアントコンピュータに表示される「登録ウェブページ」には、それ以前にユーザが登録したことのある登録レコードを登録するためのフォームが含まれ得るのか、含まれることはあり得ないのか不明である。

(4) 段落【0003】に記載の「プリセット」とはどのような処理であるのか不明である。

よって、この出願の発明の詳細な説明は、当業者が請求項 1－26 に係る発明を実施することができる程度に明確かつ十分に記載されたものでない。

なお、本願明細書は、一つの段落に含まれる量が多すぎる。少なくとも、「発明の実施の形態」、各「実施例」、図面の説明の境で段落を分割すべきである。

4. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第 36 条第 6 項第 2 号に規定する要件を満たしていない。

記

各請求項の記載は全体的に不明確である。

(1) 本願発明は、末尾の記載からして「セグメント登録」、すなわち「セグメント」の登録に係るものであると解釈すべきところ、請求項本文の記載において実際に登録されているのは「レコード」であるから矛盾している。

(2) 「クライアント」は、ユーザのことであるのか、クライアントコンピュータであるのか不明である。したがって、本願発明は、人間とサーバとが協働して

作業を行うシステムに係るものであるのか、クライアントコンピュータとサーバコンピュータとが協働して自動的に処理を行うシステムに係るものであるのか不明である。

クライアントコンピュータによる処理であると仮定すると、登録レコードの記入やマウスのクリックを、どのようにしてクライアントコンピュータが自動的に行っているのか不明である。

(3) 「登録条件」と「登録ウェブページ」の対応関係は、一対一、一対多、多対一のいずれであるのか不明である。また、各「登録ウェブページ」により登録すべきレコードは1つに限るのか複数である場合もあるのか不明である。

(4) 請求項1の工程(c)に記載の「前記命令」は、連続的に出された複数の命令すべてを指すのか、連続的に出された命令のうちの一つの命令を指すのか不明である。仮に前者である場合、複数の命令が一の登録条件を満たすとはどのような場合であるのか不明である。仮に後者である場合、請求項3の記載は技術的に矛盾している。

(5) 請求項1の記載において、「登録条件」がどのようなデータから構成されているのか、又は、「命令」との関係が不明であるから、「命令」が「登録条件」を「満たす」とはどのような状態であるのか不明である。請求項15の記載についても同様。

(6) 請求項1の記載において、「第2要求」がどのようなデータから構成されているのか不明である。したがって、工程(d)の記載において、「第2要求」からどのようにして「対応する前記登録ウェブページ」を判別することができるのか不明である。(「第2要求」には少なくとも「登録条件」が含まれていることが不明である。)

(7) 請求項2に記載の「請求項2記載の」は、「請求項1記載の」の誤記と認められる。

(8) 請求項6、13、19、25に記載の「プリセット」とはどのような処理であるのか不明である。また、該「プリセット」は、どのようなタイミングでなされるのか不明である。

(9) 請求項8記載の「セグメント式」は、「セグメント」の誤記と認められる。

(10) 請求項9に記載の「直接工程(d)」、及び、請求項10に記載の「上記の工程(d)」が、請求項8に記載のどの工程を指しているのか不明である。

よって、請求項1-26に係る発明は明確でない。

4. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許

法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項8-14及び21-26について、
引用文献1

引用文献1には、ユーザが新規にウェブサイトの会員となる際に、登録代行ウェブサイトが、そのウェブサイトのサービス利用に必要な情報をサイト登録プロフィールデータベースから選択してユーザに要求し、ユーザがブラウザより入力した情報をユーザプロフィールデータベースに保存し、ユーザが既に会員となっているウェブサイトのサービスを利用する際には、ユーザプロフィールデータベースから、ユーザが選択したウェブサイトのサービス利用に必要な情報を選択して該ウェブサイトへ送信することによりそのサービスの利用を可能とするシステムが記載されている。すなわち、本願発明の「登録条件」は、ユーザが選択したウェブサイトに対応し、「命令」は、ユーザがブラウザを介してウェブサイトを選択する命令に対応し、「登録ウェブページ」は、そのウェブサイトのサービス利用に必要な情報をユーザが入力するための画面に対応している。

引用文献等一覧

1. 国際公開第00/052900号パンフレット

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C 第7版
 G 0 6 F 1 5 / 0 0、1 3 / 0 0
- ・先行技術文献
 特開平10-254957号公報
 国際公開00/25227号パンフレット

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。